

学長としての方針
鹿屋体育大学アクションプラン
～任期中の取組と課題～



○ 私が考える大学運営の3つの柱

1つ目は、透明化

- ・ 運営執行部と教職員との情報及び意識の共有の促進と強化

2つ目は、組織化

- ・ 教職員の強みや興味・関心に沿ったチーム制による全教職員の中期目標・中期計画・年度計画等への参画

3つ目は、発信化

- ・ 大学の成果やサービスを広く社会に知ってもらう広報戦略の立案と効果的な情報発信

『スポーツで未来を拓く 自分を創る』ための 新たな挑戦と統合

○ 私が目指す鹿屋体育大学像

【総論】

本学は、体育・スポーツ分野の教育・研究を担う大学として位置づけられています。

具体的には、①競技力の向上、②運動による体づくり・健康づくり、そして、③スポーツによる地域の活性化に資する人材を育成することや研究することが本学の役割です。

前学長が取り組んだ実践的なスポーツパフォーマンス研究領域としての研究施設・設備の設置のみならず、今後は、この施設設備を本学の教育や研究、さらには、社会貢献で積極的に活用することが重要です。

法人化3期目を迎え、本学として「何をやったのかではなく、やったことによってどのような成果が得られたか」が評価されます。

本学は、学生数約850名、教職員約140名のコンパクトな体育大学ですが、コンパクトな大学ゆえ、お互いがよく交流でき、個々人が全体を理解しやすく、各自の専門分野で活躍できる大学です。



大学全景

特に、私が考える学長としての任期中の取組と課題は、

(1) 教育

学生が鹿屋体育大学に来てよかった、OB・OGが卒業生・修了生であることを誇れる大学づくり

① 学部教育

- ・ 学生個人々人に対応したきめ細やかな教育の実施
- ・ 本学の特性である競技活動と学業を両立させ、実質的学業時間の確保（各授業科目の資料作成など）
- ・ スポーツ・健康関係の専門知識と技能習得のための演習形式授業（アクティブラーニング）の充実

② 大学院教育

- ・ 国際学会での研究発表の推進
- ・ 本学の特性であるスポーツパフォーマンス研究棟を活用した実践的研究の推進
- ・ 大学院博士後期課程の整理（共同専攻とその他の専攻）と第3期中期目標・中期計画期間中での入学定員の見直し

(2) 研究

アジア地域を柱に体力づくり・健康づくり、スポーツ・武道分野の研究の核となる大学づくり

- ・ TASS、PALS などの学内プロジェクト研究の推進
- ・ スポーツパフォーマンス研究棟を活用した研究推進のため、国内外の体育関係者や企業等との共同研究の推進。特に、企業等との共同研究による研究費の獲得



測定風景

(3) グローバル化

積極的な交流を推進するためのグローバルな教育・研究拠点を形成する
大学づくり

- ・国際スポーツ・アカデミー形成支援事業（スポーツ庁補助事業）などを活用し、主にアジアの若手指導者や研究者を育成するとともに、教職員及び学生のグローバル化につなげる環境の整備



国際スポーツ・アカデミー集合写真

(4) 社会貢献

鹿屋をはじめ、県内外の各地で「おらが鹿屋体育大学」の応援団を創る
大学づくり

- ・貯筋運動による体づくり・健康づくりへの指導者派遣
- ・地域、企業やプロスポーツチームへのスポーツパフォーマンス研究棟での測定評価
- ・2020年東京オリンピック・パラリンピック大会、そして地元鹿児島での国民体育大会への協力・支援
- ・2020年東京オリンピック・パラリンピック大会以降は、アジア諸国を対象としたスポーツパフォーマンス研究棟研究設備を活用した研修会への移行



貯筋運動の様子

(5) 管理運営

教職員のやる気、達成感のある大学づくり

- ・ 専門性の高い職種について、可能な限りの専門家の配置
- ・ 昇任基準の見直し（特に、教員の職階と大学院担当との関係から）
- ・ 学長裁量経費の配分とその評価システムの見直し



授業風景

【まとめ】

- ・ 「全国でただ一つの国立の体育大学」という特性を十分に活かしつつ、
 - 「スポーツパフォーマンス研究」をする大学へ
 - 「アジアにおけるスポーツ医科学、スポーツ・武道の文化の拠点」となる大学へ
 - 「国民の健康体力向上・維持を先導」する大学へ
- ・ 学生・教職員、地域の方々、関連団体・企業等にとって信頼される大学へ
- ・ 鹿屋体育大学を次の世代に繋ぐ